

## 研究概要（公開用）

一般的に、認知症は、前臨床期・軽度認知障害という未病の状態を経て30年余りの歳月を経て発症する。未病の状態で先制医療を実施できれば、認知機能低下を抑え、認知症発症を遅延・予防できると想定されるものの、未病の状態を客観的に評価する技術の開発は遅れている。そこで本研究では、認知症を未病の段階で検出する技術の開発を試みた。